

冬の停電に備える

ご家庭に、エアコンや電気ストーブ、オイルヒーターや床暖房など、電気で動く暖房器具しか持ち合わせていない場合、冬場に停電が発生すると暖を取るのに苦労します。さらに停電が長期化すると、住宅内が屋外並みに冷えて寒さとの闘いになり、屋内にいても低体温症や凍傷などで凍死することさえ考えられます。例として最大のリスクを示しましたが、実際、停電の長期化とはどの程度の時間でどのような時に起こるのでしょうか？また、冬の停電に備えるには何が必要になるのでしょうか？

2018年9月6日、最大震度7を記録した北海道胆振東部地震の二次災害として、日本初となるブラックアウトが起きました。ブラックアウトとは、大手電力会社が管轄する地域一帯で停電が発生する大規模停電のことです。最大約295万戸が停電状態に陥り、95%以上の電力が復旧するまでにおよそ50時間（2日間以上）かかりました。この時は9月でしたが、もし真冬に発生していたら二次災害の被害は甚大なものとなっていたかもしれません。

次に、冬の停電の備えをいくつかご紹介します。

- ・電気を使わない暖房器具（石油ストーブ、カセットガス暖房機、カイロ）を備えましょう。
- ・カセットコンロを準備しておく、温かい料理を作ることができて身体も部屋も温めることができます。
- ・アルミシートや防寒シートを窓ガラスに貼る事によって、屋外の冷気をある程度は遮断することができます。
- ・冬は夜が長くなります。明るさを長時間確保するために懐中電灯の電池也多めにストックしておきましょう。

このような備えは季節特有のものになります。季節の変わり目には防災用品の入れ替えを含めた点検を行い、季節に合った防災を心掛けましょう。

〈防災士 荻野勝也〉

電池は代用できないからこそ、あればあるほど安心

1人当たり乾電池は、単3形なら
17本以上を目安にストック
しましょう *3日間を目安

もしもの時は、あるもので代用するという考え方が基本ですが、電池は、他のものには代えがたい。電池だけは、たくさん持っておくことをお勧めしています。さらに、懐中電灯などの使用したい機器の必要なサイズの確認も忘れずに。

1人当たりの乾電池(単3形) *3日間を目安



出典:Panasonic「もしもの備え白書」より一部抜粋